

美術科学習指導案

平成14年 11月 7日(木)

第6校時(於:管理棟2階 美術室)

第2学年C組 指導者 田中 彰

題材名 「身近な静物を描く」～ 鉛筆素描 ～ 考察

1 生徒の実態 (2年C組 男子18人 女子16人 計34人)

実態調査から、約4割の生徒が、「美術は苦手」と答え、その理由として「絵が下手」「うまく描けないこと」をあげていた。自分の片方の手を観察し「明暗の調子をつけて立体感をだすこと」を課題として鉛筆デッサンを行ってみると、観察に基づいて正確に形をとれている生徒は全体の約2割であった。約4割の生徒は、指の太さと長さが手の平や拳の大きさとちぐはぐであり、部分的には形をとらえているが、全体と部分のバランスがとれていないデッサンになっていた。また、あとの4割は、大づかみで概念的な表現になっており、観察が表現につながっていないように見える。その線描表現は、硬くぎこちなかったり、細すぎたり、弱々しく、強弱の幅が乏しいなど、鉛筆という画材を使いこなせていないものが少なかった。画材としての鉛筆の扱いや、表現の多様さを練習によって身につけさせていきたい。また、部分と全体の比例を修正の視点として明確にし、制作過程において意識化をはかりたい。

2 題材の考察

絵を描いたり物を作ることを通して自己を表現することは、児童、生徒たちにとって、もともとは面白く楽しい活動である。小学校の低学年までは、みな大好きだった絵を描く活動が、「本物らしく描きたい」欲求の高まる中学年から高学年になるにつれ、自分の表現に満足できなくなる。そして、中学生にいたっては多くの生徒が、「絵を描くのは苦手。」と思うようになっていく。絵を描くとき、それが、観察に基づく写生的な絵であれ、想像に基づく空想的な絵であれ、表現するための前提となるのは、物をよく見取ったり、気付いたり、形・色・量感などの特徴をとらえ、表現する素描の能力であろう。その能力を伸ばすことは、自分の思いや考えを形にするための裏付けとなるはずである。多くの生徒が一度は、苦手意識を持ってしまった絵の表現を、素描の指導を通して自信を持たせ、再び、楽しく面白いものとして復活させていきたい。そして、さらなる表現の可能性へと発展させてやりたいものである。

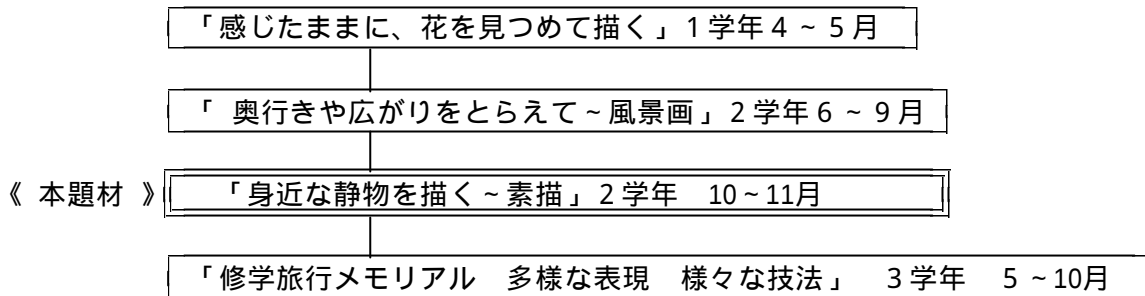
では、生徒は絵を描く初期の段階で何につまづいているのだろうか。苦手意識の強い生徒の表現の背景には、まず目測の誤りがあり、部分と全体の比のアンバランスに気付かず、形を修正できていない傾向がある。一方で描く物を、先入観や概念(このようなものという思い込み)で描いてしまい、物を見ていても、自分の表現のゆがみや狂いと、対象との違いが見えていないものが多い。観察を表現に結びつける過程で、形や比例を、見取れていないからである。これらが「絵を上手に描けない」「絵が下手」という苦手意識の元となり、意欲的に取り組んだり、多様な表現を工夫したり、楽しんだりすることを阻んでいる。

これらのことから、素描の学習において、観察に基づき、形を見極め、違いに気付く修正する技能を育てることは大切なことであり、それは表現に自信を持ち創造的に表現する能力を引き出すことにつながると考える。

これまでの指導においては、測り棒による計測法を教えたり、多様な画材を選択させるなどしてはみたが、対象を基本的な図形に置き換えたり、対象を見取り、表現と対象を比較し、違

いに気付いて修正するなどの観察と表現を結びつける指導の工夫が足りなかった。さらには、一つの画材に習熟させることや、基本的な素描の訓練となる学習過程も少なかったため、生徒が本当に観察する力や表現する力を伸ばしているかどうかは明確ではなかった。観察と表現を結びつける活動に重点を置き、対象をよく見て描く訓練を重ねることを通して、絵を苦手とする生徒の素描の表現技能を高めることができると考え、本題材を設定した。

3 題材の系統性



4 指導方針、支援及び留意点

- ・生徒にA4版のクロッキー帳を持たせ、日常的に素描、クロッキーに取り組む環境を作る。
- ・素描の基本である画材としての鉛筆に習熟するため、B～4Bの使用を指示し、貸し出し用の鉛筆と練り消しゴムを用意、他の画材は使わない。
- ・素描の基本訓練を「導入の過程」とし、始業課題、家庭学習課題に取り組む。ここで先入観や概念では、形をとることができないモチーフに取り組ませ、対象をしっかりと観察し、それに基づいて線や調子を描き込んでいく姿勢をはぐくんでいく。
- ・「導入の過程」の素描課題は、その都度、簡単な評価をつけて生徒に返却し、誠実に取り組む姿勢と意欲を喚起していきたい。
 始業課題として「手のしわを描く」「だれかの耳を描く」「丸めた紙を描く」
 始業課題の仕上げとして「つぶした缶を描く」
- ・対象の形をとる前段階として、中心線、補助線、あたり（見当）の付け方を示範する。
- ・外形をとる過程で、モチーフを単純な形に置き換えて見る方法と鉛筆の軸を測り棒に利用する簡単な計測法を示範する。
- ・生徒の表現の目標となる素描作品を掲示し、参考にさせる。
- ・観察に重点を置かせるため、線描は、ゆっくり「カタツムリのような早さの線」で描くよう指示する。
- ・描き始めは、軽く、薄く、修正しやすい線を描かせ、常に観察しながら、試行錯誤の線を重ねていくよう指示する。
- ・形を追求する過程では、度々表現をとめて、対象と見比べ、目測を吟味し、納得がいくまで修正を重ねるよう促す。
- ・明暗の調子のつけかた、鉛筆の表現のトレーニングをさせ、グレースケールにも丁寧に取り組ませる。
- ・形、明暗、質感、を追求する過程で、加除修正を重ねながら、納得のいったところは表現を強めていくよう指示する。
- ・本制作のモチーフは、生徒自身に、日用品、運動用具、文具、人形など、自分が描きたいものを用意させる（本制作の前段階でモチーフを確認しアドバイスする）。
- ・始業課題や、制作の過程で良い表現を紹介し、またお互いの作品を見合う機会を設けて、表現のよさ（正確さ、丁寧さ、強さ、やさしさ、のびやかさ、緻密さなど）を認め合うように

促していく。

- ・事前実態調査から、苦手意識の強い生徒や、対象を見取って描けない生徒の変容を観察し、仮説の成果を検証する。
- ・始業課題とする素描のトレーニング計画（見ること、気付き修正する訓練）

9月5日（木）から毎週の課題とする

実施日程	種 類	課 題 名 （ 設定時間 ）
9 / 5（木）	始業課題	丸めた紙のしわを描く （10分）
9 / 12（木）	始業課題	だれかの耳を描く （15分）
9 / 19（木）	始業課題	手のしわを描く （10分）
10 / 3（木）	始業課題	つぶした空き缶を描く （40分）

目標 （研究報告書参照）

評価規準 （研究報告書参照）

指導と評価の計画（研究報告書参照）

本時の学習

（１）本時のねらい（４時間予定の第１時）

- ・素描のよさや美しさを知り、鉛筆による表現の基礎を身につける。
- ・立体図形をモチーフとして修正の視点を身につける。

（２）準備、資料など

【 教師 】・立体図形、円錐、角柱、角錐、・素描の参考作品、ワークシート

【 生徒 】・教科書、資料集、鉛筆、消しゴム、スケッチブック

（３）展開

学習活動	時	学習活動への支援及び留意点	評価規準	評価方法
1 本時のめあてを知る。 ・参考作品を鑑賞し、感想を持つ。	5分	・丹念に描かれた素描作品や形を正確にとらえた素描作品を掲示する。 ・作品のよさ、魅力について感想を求め、丁寧さ、正確さ、調子の美しさなどに気付かせる。	・素描に関心を持ち、表現の魅力や特質を感じ取れたか。（関）	・発言や挙手 ・ワークシートの記述
2 鉛筆の持ち方、タッチの種類、調子の付け方を学ぶ。 ・鉛筆の使い方を知る。 ・グレースケールをつくり、明暗濃淡の調子の描き方を学ぶ。	15分	・3本指で鉛筆を寝かせて持つ方法を指示し、その持ち方で数種類の線をスケッチブックに描いてみる。 （長い直線、軽い線、強い線、短い線、丸い線、幅のある線、鋭い線） ・資料集を開いて、線の強弱、軽い調子のつけかた、強い調子のつけかたなどをスケッチブックに練習する。 ・グレースケールをつくる。 （5～6）段階で、面取りした図案を線の粗密で塗り分ける。	・鉛筆の持ち方、基本的な使い方、調子の付け方などを理解し、意欲的に試すことができたか。（関）（創） ・明暗の調子をグレースケールで美しく表現することができたか。（創）	・スケッチブックへの取組

3 立体図形を描く。	25分	・角柱、角錐、円柱などの基本的な立体図形をグループごとに描かせ、中心線、補助線、縦横の比例の見方、あたりのつけ方、修正の仕方など指示する。 ・薄くあたりをつけることから始める。 ・形をある程度とらえてから、明暗の調子をつけさせる。	・基本となる立体図形を縦横の比や明暗の調子でとらえることが出来たか。(創)	・スケッチブックの作品の制作過程や完成した作品
4 本時のまとめ ・ワークシートに取り組む。 ・次時の課題を知る。	5分	・今日の学習とこれまで取り組んできた始業課題をふり返し、進歩した点や感想などシートにまとめる。 ・次時は、各自でモチーフを用意することを予告する。	・鉛筆による素描の面白さや表現の可能性の豊かさを感じ取ることが出来たか。(関)	・ワークシートの記述

本時の学習

(1) 本時の目標 (4時間予定の第2～4時間目)

・身の回りの静物を観察し、対象のよさや美しさを表し方を工夫して鉛筆素描で表すことができる。

(2) 準備、資料など

【 教師 】・モチーフとする日用品(文具、食器、衣類、靴、運動具など)

・素描の参考作品、貸し出し用鉛筆、練り消し、ワークシート

【 生徒 】・モチーフとする日用品(文具、食器、衣類、靴、運動具など)

・教科書、資料集、鉛筆、消しゴム、スケッチブック

(3) 展開

学習活動	時	学習活動への支援及び留意点	評価基準	評価方法
1 日用品を机に乗せて、組み合わせを決める。	10分	・生徒の描写力を考えあわせながら、日用品の 数や組合せ方を検討する。(複雑なもの、単純なもの、概念で描いてしまいそうなものを見極め、アドバイスしていく。)	・自宅からモチーフを選んで持参し置き方や組み合わせを工夫しているか。(関)(発)	・生徒のモチーフ
2 構図を決め、中心線、補助線を引く。	5分	・運動靴やグローブなど具体的な物で外形のとらえ方、縦横、全体と部分の比例のつかみ方を実演する。 ・外形をとっていく上で中心線、補助線を活用させる。		
3 あたりをつけ、大まかな形を薄く描いていく。	20分	・初歩的な計測法により、外形をとらえるポイントをあたりとして、まずは薄く描くことを指示する。 ・修正するために、何本も線を引いてよいことを知らせる。	・外形の取り方が理解でき、あたりをつけて、薄く大まかな形が取れているか。(創)	・制作途中の作品

4 修正しながら形を決定し、線を強めていく。	45分	・修正の視点として、縦横の比、基本図形を当てはめること、部分と全体の比について検討するよう指示する。形の狂いを一人一人確かめていく。 ・確信がもてれば線を重ね強めていく。	・修正の視点を理解し、制作の過程で生かそうとしているか。(関)(創)	・制作途中の作品
5 明暗の調子を描き、線の密度を上げていく。	45分	・明暗は、徐々に強めていけるように線の粗密で描き重ねさせる。	・明暗の調子など強弱、濃淡の変化を追及しようとしているか。(創)	・制作途中の作品
6 調子を整え、仕上げていく。	20分	・余分な線や、汚れなどを消して、作品を美しくする。	・美しく、表現を工夫できたか。	・完成した作品
7 ワークシートに工夫した点や感想をまとめる。	5分	・制作の進み具合に応じて、ワークシートに取り組ませる。		

資料2 ワークシート

美術科ワークシート

課題名	H14 年 月 日 () 第 校時
1 自分の表現に対する自己評価 ○をつける A,大変満足 B,ほぼ満足 C,ふつう D,やや不満 E,おいに不満	
2 特に難しかったところ、よくできなかったところ 1)形をとらえること 2)線の引き方 3)修正の見極め 4)明暗の調子のつけ方 ----- -----	
3,よくわかった、うまくできたところ、以前より進歩したところ、または感想、その他 ----- ----- -----	
組 番	

資料3 生徒作品



生徒A 11月作品「手」



生徒B 11月作品「手」